

大腸内視鏡ポリープ切除術の看護

4B 病棟師長

ささき えつこ
佐々木 悦子

4B 病棟は、外科、泌尿器科、消化器内科、婦人科の患者さんが入院されている病棟です。主に手術・検査の目的の患者さんと終末期の緩和ケアが必要な患者さんが入院され、急性期から回復期、終末期までの治療と看護を行っています。

今回は大腸内視鏡検査を用いた切除術（ポリペクトミー・内視鏡的粘膜切除術）後の看護についてお話をします。

大腸内視鏡検査切除術は、安全性の高い手技ですが、ごくまれに穿孔（腸壁に穴が開くこと）や出血などを起こすことがあります。また、下剤のために腹痛や出血、穿孔を起こすことがありますので、入院や緊急の処置・手術が必要になることがあります。術後 24 時間は、安静保持を怠ると穿孔・出血のリスクが高まると言われています。そのため、当院では大腸内視鏡検査切除術後は、入院となります。検査室からの帰室後は、バイタルサイン（体温・血圧・脈拍・呼吸・意識レベル等）、腹痛・下血（腸からの出血）・吐き気等の全身状態を注意深く観察し、異常の早期発見に努めています。

また、腸を刺激しないように絶食し持続点滴を行います。翌朝、主治医の診察後に、食事（お粥食）を摂取し腹痛や下血がなければ退院となります。

退院後 10 日間は、まだ出血・穿孔のリスクはあるので注意が必要です。以下の点を守って過ごして下さい。



① 刺激物の多い食べ物は避けて下さい。

（アルコール、香辛料の多い食べ物、油分の多いスナック類、たばこ）

② 腹部に力が入る動作、激しい運動は避けて下さい。

③ 便の観察を行って、血便、黒色の便が出たら病院に連絡し受診をして下さい。



大腸がんの早期の段階では、自覚症状はほとんどありません。そのため、進行しないと症状がでません。50歳以上から増えてくる疾患です。

下血・血便が出たら、そのままにしないで消化器内科に受診しましょう。

<健康診断の結果、「精密検査必要」と言われた方の受診予約（電話等）を受け付けています>

待ち時間が少なく、スムーズに受診できます。特にお仕事をされている方、多忙な方はどうぞ地域医療連携室（下記）にご連絡ください。

電話 0765-22-1354（平日 9:00～16:00）

FAX 0120-935-631

当院では24時間救急患者様の受け入れを行っております。症状を自覚した時は、我慢をせず、速やかな受診をお勧めします。

発熱等の症状のある方は、まずは電話で連絡をお願いします。

電話 0765-22-1280（病院代表）